

■今井兼次 建築家。時代を超える独自の設計。ガウディはじめ知られざる建築家を日本に紹介。教育者としても優れる。

いまいけんじ

日清戦争終結・1895＝ 東京の青山権田原町に生まれる。

田中正造直訴1901＝ 6歳： 青山尋常高等小学校入学，

日露戦争始・1904＝ 9歳：

日露戦争終結・1905＝10歳：

ワザワザ創刊・1908＝13歳： 杉浦重剛の創立した日本中学校入学，

明治天皇没・1912＝17歳：

大正政変・1913＝18歳： 卒業。

21ヶ条要求・1915＝20歳： 早稲田大学高等予科に入学，

民本主義・1916＝21歳： 早稲田大学大学部理工科建築学科入学，1年先輩の村野藤吾に私淑して，

ベルリン条約・1919＝24歳： 卒業。そのまま助手となり，

大暴落・1920＝25歳： 早大附属工手学校講師から早大理工学部助教授，

原敬首相暗殺1921＝26歳： 日本美術学校講師，国民美術協会建築部会員，

水平社結成・1922＝27歳： 内藤多仲と“早稲田奉仕園スコットホール”。

関東大震災・1923＝28歳： 彫刻家武石弘三郎に彫刻制作を師事，国民美術協会評議員。震災で旧早大図書館大破して，

護憲三派圧勝1924＝29歳： 建築団体{メテオール(流星)}を結成。“大連停車場競技設計案”。

治安維持法・1925＝30歳： 内藤多仲・木子七郎と共同で“JOAK放送局”山口万吉邸”。\*内藤多仲中心に再建した“早大図書館”が初期の

代表作。6本の柱に精魂かけ，のち(雄辯)に施工した左官工中島武一への温かい感謝のエッセイ寄稿。

日本時代始・1926＝31歳： 内藤多仲・木子七郎と共同で“内藤多仲邸”。地下鉄駅調査のため，早稲田大学派遣留学生として，ソ連・

北欧・欧米を視察旅行，グロピウスやコルビュジェらモダニズム建築家に加え，アスブルンドやメンデルソ

ンらと会い，シュタイナーやガウディの建築を見るなど異質な建築にも触れて，

帰国，これら建築家を日本に紹介して行く。“東京地下鉄道銀座線(上野～浅草間4駅)駅舎”，

共産党事件・1928＝33歳： 早大附属高等学校講師。「海外に於ける近代建築界の趨勢」。内藤多仲と共同で“荒玉浄水場”，帝国美術

学校(武蔵野大)設立に尽力。坪内逍遙の希望具体化する“早稲田大学演劇博物館”，直後に結婚。

世界恐慌・1929＝34歳： 開校された帝国美術学校教員。「エミール・ファールレンカンパ」。早大山岳部員針ノ木遭難記念碑。

海軍軍縮条約1930＝35歳

満州事変・1931＝36歳： 「ソヴィエトロシア新興建築図案」，世界的には批判されていたソ連の建築にも親近感。ガウディについ

ては全く受け入れられず，紹介を断念。

五一五事件・1932＝37歳： “松尾部隊表忠碑”，“シカゴ万国博日本館設計案”，

国際連盟脱退1933＝38歳： 山田守・吉田鉄郎山らと{欧州新建築展}。“燕山荘設計案”，“本川小学校講堂”。

帝人疑獄事件1934＝39歳： “岸田國土山荘”，“広島商工会議所設計案”。

芥川直木賞始1935＝40歳： 父の像。北吟吉が主導した。多摩帝国美術学校創設に参加，講師を経て教授となり，校舎も設計。

二二六事件・1936＝41歳： “人見絹枝像台座設計案”，内藤多仲と共同で“天津火力発電所”。母校の“日本中学校校舎”，

日中戦争始・1937＝42歳： “本川小学校奉安殿”。

健保+総動員 1938＝43歳： 内藤多仲と北満支視察に同行し，共同で“松花江水力発電所”。“寺尾橋”“東京北沢通商店街商業組合店員道

場”。“早大理工学部教授”。“田中王堂先生墓碑”，

第二次大戦始1939＝44歳： 早大専門部工科講師。同大カトリック研究会会長。

大政翼賛会・1940＝45歳： “日蓮上人台座設計案”。

日米開戦・1941＝46歳： “早苗会賞メダル”。“航空記念碑”，

1942＝47歳： “進撃の碑”，

創価学会検挙1943＝48歳： “東京都忠霊碑設計案”“黒田三郎先生記念碑台座”，

敗戦・1945＝50歳：

新憲法施行・1947＝52歳： 多摩造形芸術専門学校理事。妻マリア静子が死去すると，

極東裁判判決・1948＝53歳： \*カトリック受洗し，亡妻の墓碑と像制作，世界平和記念広島カトリック聖堂建築顧問，

三大事件・1949＝54歳： “妻の傍”。早稲田大学第一理工学部教授。早稲田大学舞台美術研究会会長，カトリック美術協会会員。

朝鮮戦争始・1950＝55歳： 早稲田大学第二理工学部教授。“野口英世博士記念像設計案”，

独立回復・1951＝56歳：

メデー事件・1952＝57歳： “西武ユネスコ村”。この間，再びガウディを紹介しようと模索，{ガウディ友の会}と縁ができる。

自衛隊発足・1954＝59歳： “建築とヒューマニティ”。内藤多仲と共同で“根津美術館”。

55年体制始・1955＝60歳： “建築家の画稿”。日本中学校長だった“柿内邸”，“カトリック成城教会聖堂”，

国連加盟・1956＝61歳： “唐津小笠原記念館”“世界平和記念広島カトリック聖堂レリーフ構想”“田空穂先生歌碑設計案”。

なべ底不況・1957＝62歳： “足立信用金庫”，“沼津西武デパート石彫”。

インフレーション・1958＝63歳： “芸術家の倫理-職業の倫理”。“箱根芦ノ湖畔西武国際村”“福岡RKB中庭石彫”“碌山美術館”。イエズス会管

区長からの依頼で，“日本二十六聖人殉教記念館”設計に着手，

美智子妃・1959＝64歳： “早大体育賞メダル”。“大多喜町庁舎”，“既足男子カルメル会修道院聖堂”，

安保闘争・1960＝65歳： “大多喜町庁舎”に対して日本建築学会作品賞。

伊豆病始・1961＝66歳： “遠山元一邸設計案”“カトリック関口教会聖堂設計案”。東洋女子短期大学壁画陶片モザイク。

全国総合計画1962＝67歳： “習志野市庁舎設計案”“訪問童貞会修道院”。\*「アントニオ・ガウディの研究とその一連の建築作品について

」に対して早大隈記念学術褒賞。工事中に多くの人の善意を受けて“日本二十六聖人殉教記念館”完成，

TV宇宙中継始1963＝68歳： “大室高原ヘルスホテル計画案”“塩原リバーサイドホテル設計案”。“日本二十六聖人殉教記念館”に対し日

本建築学会作品賞。バルセロナでの{ガウディ友の会}創立10周年祝賀会に参加。

東京リビウカ 1964＝69歳： “欧旅素描”。“宮内庁から皇后還暦記念音楽ホール(桃華楽堂)の設計打診，

大学紛争始・1965＝70歳： “朝日生命本社彫刻”。“早大を定年退職し，名誉教授”。“訪問童貞会修道院聖堂”，

いざなぎ景気1966＝71歳： 関東学院大大学院教授。“桃華楽堂”完成させ，日本芸術院賞。佐賀の“大隈記念館”。

美濃部都知事1967＝72歳： “旅路”。“早稲田大学小野梓記念賞メダル”，“桃華楽堂”に対して建築業協会賞。

霞ヶ関ビル・1968＝73歳： 大阪万博に向け“教会の家計画案”，

大阪万博・1970＝75歳： 文化学院建築科研究コース教授。“勲三等瑞宝章。日興証券創業者”遠山美術館”。

トルジョック・1971＝76歳： “カトリック姫路本町教会設計案”，“大多喜城設計案”，

日中国交回復1972＝77歳： “玉川学園礼拝堂設計案”，

石油ショック 1973＝78歳：

田中角栄逮捕1976＝81歳： “今和次郎賞メダル”，

JALハイジャック・1977＝82歳： “それまでの建築界への貢献に対して日本建築学会大賞”。

成田衝突・1978＝83歳： “カトリック田園調布教会祭壇正面壁面草案”。“日本芸術院会員となり，

革新大敗北・1979＝84歳： “スペイン政府からアルフォンソ十世賢王勲章”。

デイズノヴァト 1983＝88歳： \*関東学院大学退職，“竹内芳太郎賞メダル”を最後の作品として，

竹下内閣・1987＝92歳： 急性心不全のため，没した。

鹿島出版会「今井兼次建築創作論」，